

平成 23 年度

神奈川県立体育センター研究報告書

**新学習指導要領に対応した学習評価についての研究**

—指導と評価の計画様式についての提案—

(2年継続の2年次)

神奈川県立体育センター  
事業部指導研究課 研修指導班

## 目 次

【テーマ設定の理由】	・・・ 1
【目的】	・・・ 1
【内容及び方法】	・・・ 1
1 研究の期間	・・・ 1
2 研究の内容	・・・ 1
3 研究の方法及び手順	・・・ 1
【研究の成果】	・・・ 2
1 「中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会 児童生徒の学習評価の在り方に関するワーキンググループ」提示の学習評価についての検討	・・・ 2
2 新学習指導要領を基にした評価規準の従前のものとの比較・検討	・・・ 4
3 評価に関する事例の検討	・・・ 6
4 指導内容に対応した学習評価のための単元計画及び時案の様式（学習指導評価案）の作成	・・・ 9
5 単元計画及び時案を作成するためのツールの作成	・・・ 15
【研究の考察】	・・・ 18
1 従前の学習指導要領と新学習指導要領を基にした評価規準の比較から見えてくること	・・・ 18
2 新学習指導要領を基にした評価規準の系統表から見えてくること	・・・ 18
3 単元計画の構造図作成ツールの開発とその活用について	・・・ 19
【まとめ】	・・・ 19
【引用・参考文献等】	・・・ 20

# 「新学習指導要領に対応した学習評価についての研究」

## —指導と評価の計画様式についての提案—

研修指導班 幸田 隆 小川雅嗣 田所克哉 磯貝靖子 瀬戸隆紀 佐藤康二 納富崇典  
研究アドバイザー 鹿屋体育大学 佐藤 豊

### 【テーマ設定の理由】

中央教育審議会から、平成20年1月17日に「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」の答申が発表された。この答申を受けて、平成20年3月に幼稚園、小学校、中学校の学習指導要領等が改訂され、平成21年3月に、高等学校、特別支援学校の学習指導要領等が改訂された。新しい学習指導要領は、小学校については平成23年度から全面実施され、中学校についても平成24年度から全面実施、高等学校については平成25年度から学年進行により実施されることになっている。

学習評価については、同答申において、指導と評価の一体化により、学校や教師は指導の説明責任だけでなく、指導の結果責任も問われていることを前提としつつ、評価の観点並びにそれぞれの評価の考え方、設定する評価規準、評価方法及び評価時期等について、今回の学習指導要領の改訂の基本的な考え方を踏まえ、より一層簡素で効率的な学習評価が実施できるような枠組みについて、さらに専門的な見地から検討を行うこととされた。<sup>1)</sup>これを受け、平成21年4月1日に、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会の下に、「児童生徒の学習評価の在り方に関するワーキンググループ」が設置され、平成22年3月24日に「児童生徒の学習評価のあり方について（報告）」<sup>2)</sup>が提示されたところである。

今後、この学習評価が各学校において円滑に実施されるためには、これまで以上に、「学習指導と学習評価の在り方、評価の観点、評価規準、具体的な評価の方法等」について参考となる資料を示すとともに、具体的な事例の収集・提示を行っていくことが重要であると考えます。

本センターにおいては、前回の改訂時に際しても、同様の観点から研究を重ね、教育現場で役立つ資料を提供してきた。しかしながら、評価の観点、評価規準の必要性等、理念についての理解を得ることができた一方、評価方法等における煩雑さは否めず、実践に当たっての十分な支援に至らなかったことが、大きな反省点である。

今回の改訂にあたり、この反省を踏まえ、学習評価の在り方及びその方法についての検討により、指導と評価を計画しやすい様式の作成が必要であると考え、本テーマを設定した。

### 【目的】

新しい学習指導要領に対応した指導と評価の計画様式について提案する。

### 【内容及び方法】

#### 1 研究の期間

平成23年4月1日～平成24年3月31日

#### 2 研究の内容

新しい学習指導要領に示された指導内容及び国立教育政策研究所の作成した評価規準に関する参考資料を基に、具体的な指導と評価の方法について検討し、指導と評価の関係を理解しやすくする指導と評価の計画様式を作成する。

#### 3 研究の方法及び手順

(1) 「中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会 児童生徒の学習評価の在り方に関するワーキンググループ」提示の学習評価についての検討

- (2) 新学習指導要領を基にした評価規準の従前のものとの比較・検討  
(平成 22 年度：小・中学校、平成 23 年度：高等学校)
- (3) 評価に関する事例の検討
- (4) 指導内容に対応した学習評価のための単元計画及び時案の様式（学習指導評価案）の作成
- (5) 単元計画及び時案を作成するためのツール作成
- (6) まとめと考察

**【研究の成果】**

**1 「中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会 児童生徒の学習評価の在り方に関するワーキンググループ」提示の学習評価についての検討**

－中央教育審議会「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」<sup>2)</sup>より－

(1) 学習評価の基本的な考え方とその見直しの経緯等について

平成 22 年 3 月 24 日、中央教育審議会より「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（以下「報告」と言う。）が提示された。その中で、「学習評価は、学校における教育活動に関し、子どもたちの学習状況を評価するものである。」とし、「現在、各教科については学習状況を分析的にとらえる観点別学習状況の評価と総括的にとらえる評定とを、学習指導要領に定める目標に準拠した評価として実施することが明確にされている。」としている。また、「学習評価を行うに当たっては、子どもたち一人一人に学習指導要領の内容が確実に定着するよう、学習指導の改善につなげていくことが重要である。」としている。

見直しの経緯としては、平成 20 年 1 月 17 日中央教育審議会答申及びそれを踏まえて改訂された学習指導要領においては、「知識基盤社会」の時代において次代を担う子どもたちに必要な「生きる力」をはぐくむことが引き続き重要であることが明確にされた。

また、改正教育基本法では、学校教育で自ら進んで学習に取り組む意欲を高めることを重視することが明示されるとともに、学校教育法及び学習指導要領の総則においては、

- ① 基礎的・基本的な知識・技能
  - ② 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等
  - ③ 主体的に学習に取り組む態度
- を育成することが示された。

新しい学習指導要領においては、「子どもたちに『生きる力』をはぐくむため、これらの学力の重要な要素それぞれの育成を図っていくことが必要である。学習評価の検討に当たっても、このような学力に関する基本的な考え方を踏まえながら検討を進める必要がある。」としている。

(2) 学習評価の現状と課題について

平成 21 年度文部科学省委託調査 学習指導と学習評価に対する意識調査		
	小学校教師	中学校教師
○「児童生徒一人一人の状況に目を向けるようになる」	88%	80%
○「児童生徒の学力などの伸びがよく分かる」	80%	63%
○「学習状況の評価の資料の収集・分析に負担を感じる」	59%	66%
○「4 観点の評価を授業改善や個に応じた指導の充実につなげられていない」	24%	33%
○「いわゆる 4 観点の評価は実践の蓄積があり、定着してきている」	81%	76%

現在、各学校においては、きめ細かい学習指導の充実と児童生徒一人ひとりの学習内容の確実な定着を図るため、学習評価を行っている。

上記の調査結果から、「報告」では「現在の学習評価については、負担感や授業改善に関して課題があると考えられるものの、小・中学校を中心に教師に定着してきていると考えられる。また、学校や教師の努力により、全体的には観点別学習状況の評価の着実な浸透が見られると考えられる。ただ、高等学校において、『いわゆる 4 観点の評価は実践の蓄積があり、定着してきている』と感じている教師は、約 41%にとどまるなど、現在の学習評価の考え方に基づく

実践について小・中学校ほど十分な定着は見られない。」としている。

(3) 学習評価の今後の方向性について

ア 学習評価の意義と学習評価を踏まえた教育活動の改善の重要性

(ア) 学習評価の意義

「報告」では、「学習評価は、児童生徒が学習指導要領の示す目標に照らしてその実現状況を見ることが求められるものである。学習指導要領は、各学校において編成される教育課程の基準として、すべての児童生徒に対して指導すべき内容を示したものであり、指導の面から全国的な教育水準の維持向上を保障するものであるのに対し、学習評価は、児童生徒の学習状況を検証し、結果の面から教育水準の維持向上を保障する機能を有するものと言える。」としている。

(イ) 学習評価を踏まえた教育活動の改善の重要性

「報告」では、「従前指導と評価の一体化が推進されてきたところであり、今後とも、各学校における学習評価は、学習指導の改善や学校における教育課程全体の改善に向けた取組と効果的に結び付け、学習指導に係るPDCAサイクルの中で適切に実施されることが重要である。すなわち、教師や学校にとっては、

- ① 学校における教育課程の編成や、それに基づいた各教科等の学習指導の目標や内容のほか、評価規準や評価方法等、評価の計画も含めた指導計画や指導案の組織的な作成
  - ② 指導計画を踏まえた教育活動の実施
  - ③ 児童生徒の学習状況の評価、それを踏まえた授業や指導計画等の評価
  - ④ 評価を踏まえた授業改善や個に応じた指導の充実、指導計画等の改善
- といった、Plan(①)、Do(②)、Check(③)、Action(④)のPDCAサイクルを確立することが重要である。」としている。

イ 今回の学習評価の改善に係る基本的な考え方

(ア) 目標に準拠した評価による観点別学習状況の評価や評定の着実な実施

「報告」では、「現在行われている学習評価の在り方を基本的に維持しつつ、その深化を図ることが重要である。観点別学習状況の評価と総括的にとらえる評定については、目標に準拠した評価として実施していくことが適当である。」としている。

(イ) 学力の重要な要素を示した新しい学習指導要領等の趣旨の反映

「報告」では、「新しい学習指導要領の下における評価の観点を示すに当たっては、従来の評価の4観点の枠組みを基盤としつつ、基礎的・基本的な知識・技能の習得とこれらを活用する思考力・判断力・表現力等をいわば車の両輪として相互に関連させながら伸ばしていくとともに、学習意欲の向上を図るという改訂の趣旨を反映し、学習指導と学習評価の一体化をさらに進めていくために、学力の3つの要素を踏まえて評価の観点を整理することが適当である。」としている。

(ウ) 学校や設置者の創意工夫を生かす現場主義を重視した学習評価の推進

「報告」では、「各学校や設置者における教育の目標や学習指導に当たって重点を置いている事項を、指導要録等においてこれまで以上に反映できるようにするなど、学校や設置者の創意工夫を一層生かしていく方向で改善を図っていくことが求められる。」としている。

(エ) 観点別学習状況の評価の在り方について

「報告」では、「現在の評価の4観点と学力の3つの要素との関係では、教科によって違いはあるものの、『知識・理解』及び『技能・表現』が基礎的・基本的な知識・技能を、『思考・判断』が知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を、『関心・意欲・態度』が主体的に学習に取り組む態度を、それぞれ踏まえているものとしておおむね整理ができると考えられる。」としている。

また、「新しい学習指導要領においては、思考力・判断力・表現力等を育成するため、基礎的・基本的な知識・技能を活用する学習活動を重視するとともに、論理や思考等の基盤である言語の果たす役割を踏まえ、言語活動を充実することとしている。これらの能力

を適切に評価し、一層育成していくため、各教科の内容等に即して思考・判断したことを、その内容を表現する活動と一体的に評価する観点を設定することが適当である。」としている。

※ 観点別学習状況の評価の観点について、「小学校 体育」及び「中学校 保健体育」は変更なし

## 2 新学習指導要領を基にした評価規準の従前のものとの比較・検討

(1) 従前の学習指導要領と新学習指導要領を基にした評価規準の比較について

今回、評価規準の相違点を明らかにするために比較した資料は、以下の通りである。

	校 種	比較した資料 (国立教育政策研究所作成)
従前	小学校	「評価規準の作成、指導方法の工夫改善のための参考資料」(小学校)平成14年2月 <sup>3)</sup>
	中学校	「評価規準の作成、指導方法の工夫改善のための参考資料」(中学校)平成14年2月 <sup>4)</sup>
	高等学校	「評価規準の作成、指導方法の工夫改善のための参考資料」(高等学校)平成16年3月 <sup>5)</sup>
新	小学校	「評価規準の作成のための参考資料」(小学校)平成22年11月 <sup>6)</sup>
	中学校	「評価規準の作成のための参考資料」(中学校)平成22年11月 <sup>7)</sup>
	高等学校	「保健体育科における評価規準の作成、指導方法の工夫改善」平成24年3月(仮) <sup>8)</sup>

また、比較をした項目は、以下の通りである。新学習指導要領を基にした評価規準では、評価の構造について、次のように変更、整理された。

評価規準レベル	比較した項目	
	新	従前
教科レベルの評価規準	評価の観点及びその趣旨	評価の観点及びその趣旨
領域レベルの評価規準	内容のまとまりごとの評価規準に盛り込むべき事項	内容のまとまりごとの評価規準
単元レベルの評価規準	評価規準の設定例	評価規準の具体例

### ア 教科レベルの評価規準の比較の例

観点 (『趣旨』・校種)	新 ←	従前
「関心・意欲・態度」、「技能」 (『運動の楽しさ』)	小学校は「技能」に、中学校は「関心・意欲・態度」に入った	「関心・意欲・態度」と「技能」に入っていた
「思考・判断」	「考え、判断し、それらを表している」	「考え、判断している」
「技能」 (中学校)	「技能を身に付ける」	「技能や運動の合理的な行い方を身に付ける」
「知識・理解」	「基礎的な事項を理解している」	「基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている」
保健「関心・意欲・態度」 (小学校)	意欲的に	進んで

### イ 領域レベルの評価規準の比較の例

観点 (『趣旨』・校種)	新 ←	従前
「関心・意欲・態度」 (『運動の楽しさ』)	器械とダンスは小学3・4年から、その他は小学5・6年から	小学校3・4年から
「関心・意欲・態度」 (『勝敗』)	小学校1～4年「受け入れる」 中学校1・2年「認める」 中学校3年「冷静に受け止める」	小学校1～4年「素直に認める」 小学校5・6年「正しい態度をとる」 中学校「公正な態度をとる」

「技能」 (中学校)	なくなる	体づくり運動の評価
「技能」 (中学校)	「〇〇の特性に応じた技能を身に付けている」	「〇〇の特性に応じたな技能を身に付けるとともに、△△することができる」
「知識・理解」	特性や成り立ち、技の名称や行い方、関連して高まる体力、試合の行い方、体力の高め方、運動観察の方法、発表会や競技会の仕方など「理解している」	特性や学び方、技術の構造、合理的な練習の仕方、競技や審判の方法など「理解し、知識を身に付けている」

ウ 単元レベルの評価規準の比較の例

観 点	新 ←	従前
「知識・理解」	～について、理解したことを言ったり書き出している ～について、学習した具体例を挙げている	～を知っている

(2) 新学習指導要領を基にした評価規準の系統性について

新学習指導要領は、発達の段階のまとまりを考慮し、小・中・高等学校を見通した指導内容の体系化を図り、系統的に指導ができるように整理された。<sup>9)10)11)</sup> 評価規準についても同様に、系統的に規準が設けられた。その系統性を整理することで、小・中・高等学校の流れの中で、「指導すべきこと、評価すべきこと」がより一層明確になると考える。

ア 教科レベルの評価規準の系統性の例

観点 (『趣旨』)	小学校 →	中学校 →	高等学校
「関心・意欲・態度」 (『愛好的態度』)	進んで	積極的に	主体的に
「関心・意欲・態度」、 「知識・理解」	運動に	運動の合理的な実践に	運動の合理的・計画的な実践に
「関心・意欲・態度」		運動の楽しさや喜びを味わう	運動の楽しさや喜びを深く味わう
「思考・判断」		学習課題に応じた運動の取り組み方	自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方
「思考・判断」		健康の保持及び体力を高めるための運動の組み合わせ方	健康の保持及び体力を高めるための運動の計画
「思考・判断」、 「知識・理解」		生涯にわたって運動に親しむ	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現
「技能」	楽しく行うための基本的な動きや技能	運動の特性に応じた基本的な技能	運動の特性に応じた段階的な技能

イ 領域レベルの評価規準の系統性の例

観点（『趣旨』）	小学校 1・2 年	小学校 3・4 年	小学校 5・6 年	中学校 1・2 年	中学 3 年・高校入学年次	高校その次の年次以降
「関心・意欲・態度」 （『愛好的態度』）	進んで	進んで	進んで	積極的に	自主的に	主体的に
「関心・意欲・態度」 （『公正・協力』） （球技）	順番やきま りを守り、 勝敗を受け 入れて仲よ く	規則を守り 勝敗を受け 入れて仲よ く	ルールを守 り助け合 う	フェアなプ レイを守る  仲間の学習 を援助する	フェアなプ レイを大切 にする 互いに助け 合い教え合 う	フェアなプレ イを大切にす る 互いに助け合 い高め合 う
「関心・意欲・態度」 （『健康・安全』）	安全に気を 付ける	安全を確か める	安全に気を 配る	健康・安全 に留意する	健康・安全を確保する	
保健 「思考・判断」		実践的		科学的	総合的	

ウ 単元レベルの評価規準の系統性の例

観点（『趣旨』）	小学校 1・2 年	小学校 3・4 年	小学校 5・6 年	中学校 1・2 年	中学 3 年・高校入学年次	高校その次の年次以降
「関心・意欲・態度」 （『公正・協力』） （『責任・参画』）	友達と協力して、用具の 準備や片付けをする		用具の準備 や片付けで 分担された 役割を果た す	分担した役 割を果たす	自己の責任 を果たす	役割を積極的 に引き受け自 己の責任を果 たす
「関心・意欲・態度」	友達と （だれとで も）	友達と	友達と （仲間と）	仲間と	互いに	

3 評価に関する事例の検討

一 国立教育政策研究所「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校 保健体育）」<sup>12)</sup> より一

(1) 第 1 編 総説 第 3 章 評価方法の工夫改善について

ア 評価方法の改善について

各学校では、各教科の学習活動の特質、評価の観点や評価規準、評価の場面や生徒の発達段階に応じて、様々な評価方法の中から、その場面における生徒の学習の状況を的確に評価できる方法を選択していくことが必要である。

イ 評価時期等の工夫について

各学校で年間指導計画を検討する際、それぞれの単元において、観点別学習状況に係る最適の時期や方法を観点ごとに整理することが重要である。これにより、評価すべき点を見落としていないかを確認するだけでなく、必要以上に評価機会を設けて評価資料の収集・分析に多大な時間を要するような事態を防ぐことができ、各学校において効果的・効率的な学習評価を行うことにつながると考えられる。

ウ 各学校における指導と評価の工夫改善について

(ア) 指導と評価の一体化

新学習指導要領は、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力、判断力、表現力等をバランスよく育てることを重視している。このバランスのとれた学力を育成するためには、学習指導の改善を進めると同時に、学習評価においては、各観点ごとの評価をバランスよく実施することが必要である。

(イ) 学習評価の妥当性、信頼性

「報告」<sup>2)</sup>では、学習評価の妥当性、信頼性等を高めるよう努めることが重要であると

されている。学習評価を進めるに当たっては、指導の目標及び内容と対応した形で評価規準を設定することや評価方法を工夫する必要がある。評価方法を検討する際には、評価の観点で示される資質や能力等を評価するのにふさわしい方法を選択すること、また、評価方法と評価規準と組み合わせ設定することが必要であり、評価規準と対応するように評価方法を準備することによって、評価方法の妥当性、信頼性が高まるものと考えられる。

(ウ) 学校全体としての組織的・計画的な取組

学習評価の工夫改善を進めるに当たっては、評価規準を適切に設定するとともに、評価方法の工夫改善を進めること、評価結果について教師同士で検討すること、授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図ること等について、学校として、組織的・計画的に取り組むことが必要である。

(2) 第3編 評価に関する事例について

ア 評価規準の設定について

(ア) 評価規準の設定における基本的な考え方

平成 23 年 7 月国立教育政策研究所より「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校 保健体育）」<sup>12)</sup>（以下、「参考資料」<sup>12)</sup>と言う。）が提示され、その「第3編 評価に関する事例」の中で、評価規準の設定の基本的な考え方、設定例等の活用と6つの事例が示された。

評価規準の基本的な考え方としては、「体育分野では『内容のまとまりごとの評価規準』はA～Hの各領域ごとに作成することとし、評価の観点は『運動への関心・意欲・態度』『運動についての思考・判断』『運動の技能』『運動についての知識・理解』の4観点で評価することとなる。（『A体づくり運動』は『運動の技能』を除いた3観点）」としている。

また、「運動に関する領域においては、学習指導要領に指導内容が（1）技能（体づくり運動は（1）運動）、（2）態度、（3）知識、思考・判断で示されており、これらの指導内容に対応した学習状況について、上記の通り4（3）つの観点から評価することになる。また、『H体育理論』は、大項目の『内容のまとまり』ごとにねらいを設定し、学習活動を工夫した上で、『運動の技能』を除いた3観点で評価する。保健分野は、健康・安全に関する4つの内容のまとまりで構成されており、『健康・安全への関心・意欲・態度』『健康・安全についての思考・判断』『健康・安全についての知識・理解』の3観点で評価する。」としている。

(イ) 評価規準の設定例等の活用

<体育分野>

- 各学校は、「第1学年及び第2学年」と「第3学年」で示された各領域に対応した「内容のまとまりごとの評価規準」及び領域の内容に対応した「単元の評価規準」を手がかりに、授業に対応した「学習活動に即した評価規準」を設定する。
- 運動に関する領域で、「学習活動に即した評価規準」を設定する際には、目標となる学習指導要領に示された内容に照らし合わせて各学校で検討することとなるが、「技能」は、領域の内容ごとに学習指導要領解説の例示等も手がかりに設定する。
- 「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「知識・理解」については、領域で共通した内容が示されているので、領域で共通して設定することが考えられる。なお、第1学年及び第2学年で、すべての領域を取り上げることとなるが、2年間継続して1つの領域を取り上げる場合は、以下の対応が考えられる。
  - ・ 「技能」の観点は、領域の内容ごとに各学年の「学習活動に即した評価規準」を設定する。
  - ・ 「技能」以外の観点は、各学年での指導内容を重点化し、領域共通の評価規準を各学年に振り分け、2年間を見通した「学習活動に即した評価規準」を設定する。
- 「関心・意欲・態度」は、学習指導要領解説に愛好的態度、公正、協力、責任、参画、健康・安全に対する体育固有の指導内容が示されているので、まず、これらの意欲を育

むための知識について理解させることが大切である。本事例では、各指導内容に対応した活動場面を設定し、意欲的な取組を促し評価機会を設定する工夫をしている。

- 「技能」は、身体表現や瞬時の判断を含む動きとして、評価規準を設定することが大切である。
- 「関心・意欲・態度」及び「技能」における評価は、態度の育成や技能の獲得等に一定の学習機会が必要となること、主に観察評価によって評価を行うことから、本事例では、指導後に一定の学習期間及び評価期間を設ける工夫をしている。
- 「知識・理解」は、全ての学習の基礎となるため、基礎的・基本的な内容を確実に指導することが大切である。
- 「思考・判断」は、知識の内容を確実に指導した上で、学習指導要領解説の例示を手がかりに、知識を活用する場面を設定し、思考力・判断力を高めた上で評価をすることが大切である。特に話し合い活動などでは、課題を明確にして課題の焦点化を図るなどの指導の工夫が大切である。
- 「知識・理解」及び「思考・判断」は、主に学習ノート等に記述された内容から評価を行うことから、本事例では、指導から期間を置かず評価をしている。さらに、生徒の発言等の観察評価によって得られた評価情報を加味して評価の妥当性、信頼性を高める工夫をしている。
- 知識に関する領域は、各学年で取り上げる3つの大項目と、理解する内容としてそれぞれ3つの小項目が示されている。体育理論については、全領域と比較して時数の少ない単元構成が予想される。そのため、「知識・理解」は毎時の小項目ごとに評価規準を設定することとし、「関心・意欲・態度」、「思考・判断」については大項目を通して評価規準を1つ設定し、意欲を促したり知識を活用したりする学習機会を確保した上で、複数の評価機会を設ける工夫をしている。

<保健分野>

- 保健分野では、学習指導要領の目標に、「個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる」ことが示されており、内容に、心身の機能の発達と心の健康、健康と環境、傷害の防止、健康な生活と疾病の予防について理解できるようにすることが示されている。この場合の「理解」は健康・安全への知識・理解だけでなく、健康・安全についての関心・意欲・態度や思考・判断などの資質や能力を含んだものとされている。そこで、単元の目標は3つに分けて示すこととし、評価についても3観点で評価することとする。
- 保健分野においては、「評価規準の作成のための参考資料」で示した「内容のまとまりごとの評価規準に盛り込むべき事項」が「単元の評価規準」等、「評価規準の設定例」が「学習活動に即した評価規準」になるように作成している。
- 「単元の評価規準」を設定する際には、学習指導要領を踏まえ、単元の目標を明確にするとともに、「内容のまとまりごとの評価規準に盛り込むべき事項」を参考に、「評価規準の設定例」を活用して観点ごとに作成する。
- 「学習活動に即した評価規準」を設定する際には、学習指導要領解説を踏まえ、授業の目標を明確にするとともに、「評価規準の設定例」を参考に、授業をイメージして観点ごとに作成する。また、「単元の評価規準」との整合性をとるように留意する。
- 「関心・意欲・態度」については、単元の内容について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている状況を示している。学習活動については、調べ学習などの個人で取り組む活動と、話し合いなどの集団で取り組む活動を例示している。
- 「思考・判断」については、単元の内容について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表している状況を示している。
- 「知識・理解」については、単元の内容としての基礎的事項について、理解したことを言ったり、書き出している状況を示している。評価規準の作成に当たっては、学習指

導要領及び解説に基づいて、授業で何を教えるのかを明確にすることが求められる。

#### 4 指導内容に対応した学習評価のための単元計画及び時案の様式（学習指導評価案）の作成

新しい学習指導要領の考え方に対応した学習評価のための単元計画及び時案の様式（学習指導評価案）を作成した。

##### (1) 学習指導評価案の特色について

- 「報告」<sup>2)</sup>で言われている「学習評価の信頼性、妥当性」という観点から、学習指導評価案では『単元の目標』を学習指導要領の内容を基に設定する作りになっている。また、『単元の評価規準』も同様に学習指導要領及び解説の言葉や例示の内容を基に設定する作りになっている。
- 「参考資料」<sup>12)</sup>では、基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等及び主体的に学習に取り組む態度をバランスよく育成することが言われており、学習指導評価案では『学習の流れ・指導と評価の計画』の中で、3つの学力をバランスよく指導し、それを4つの観点で計画的に評価するための計画が立てられるようになっている。
- 「参考資料」<sup>12)</sup>で言われている「効果的・効率的な評価」という観点から、学習指導評価案では『学習の流れ・指導と評価の計画』の中で、1単位時間の中で評価する項目がいくつあるか一目でわかる作りになっている。
- 「参考資料」<sup>12)</sup>で言われている「最適な評価時期と評価方法」という観点から、学習指導評価案では『学習の流れ・指導と評価の計画』の中で、いつ指導し、いつ評価するのが最適かを考え、計画するようになっている。また、【本時の展開】の中で、『本時の学習の指導内容』と『本時の評価内容』に分けて記載することで、時案を見ても、本時では何を指導し、何を評価するかがわかるようになっている。
- 単元計画及び時案を作成することが煩雑にならないように、簡略化できるところは簡略化するとともに、学習指導要領解説が一冊あれば作成できるようになっている。

##### (2) 学習指導評価案作成の留意点について

〈体育 運動に関する領域〉

###### 【単元計画】

- 単元名は、「学年」「領域」「型：種目」または「種目」を記載する。
- 学習指導要領の内容及び単元の目標は、学習指導要領の内容から語尾を「～できるようにする。」に変えて記載する。
  - ・「技能（体づくり運動は『運動』）」の内容を（1）の欄へ記載する。
  - ・「態度」の内容を（2）の欄へ記載する。
  - ・「知識、思考・判断（小学校は『思考・判断』）」の内容を（3）の欄へ記載する。
  - ・（2）（3）欄については、該当学年で取り上げる内容がわかるように下線\_\_\_\_\_を引く。
- 単元の指導内容及び評価規準  
〔指導内容〕
  - ・〈技能〉は、学習指導要領解説の例示の内容を記載する。
  - ・〈態度〉は、学習指導要領の内容及び単元の目標で下線を引いた内容の語尾を「～こと。」として記載する。また、愛好的態度は「種目の学習」または「型：種目の学習」に変える。解説の態度の内容の「～など」に関する具体的な内容も記載する。
  - ・〈知識・理解〉中・高等学校は、学習指導要領の内容及び単元の目標で下線を引いた内容の語尾を「～理解すること。」として記載する。また、「種目」または「型：種目」に変える。解説の知識の内容の「～など」に関する具体的な内容も記載する。
  - ・〈思考・判断〉中・高等学校は、学習指導要領解説の例示を記載する。小学校は、学習指導要領の内容及び単元の目標で下線を引いた内容の語尾を「～理解すること。」として記載する。
  - ・「参考資料」<sup>12)</sup>、国立教育政策研究所作成の「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（小学校 体育）」平成23年3月<sup>13)</sup>（以下、「参考資料」<sup>13)</sup>と言う。）

を参考にする場合は、「評価規準の設定例」を参考にする。

[評価規準] 指導内容の語尾を変える。

- ・《技能》 「～できる。」
- ・《関心・意欲・態度》 「～しようとしている。」（健康・安全に関する事項は、「～いる。」）
- ・《知識・理解》 「～について、学習した具体例を挙げている。」 「～について、言ったり書き出したりしている。」（中・高等学校のみ）
- ・《思考・判断》 「～している。」

○ 学習の流れ・指導と評価の計画

[学習の流れ]

1 単元の目安	
・小学校低・中学年	5～6 時間
・小学校高学年～中学校 1・2 学年	8～10 時間
・中学校 3 学年～高等学校入学年次	15～20 時間
・高等学校その次の年次以降	20～30 時間

- ・単に練習やゲームと記載するのではなく、教材の工夫や指導方法がある程度わかるように作成する。

[指導と評価の計画]

- ・「いつ」「何を」指導して、「いつ」「何を」評価するかがわかるように、指導の重点、評価の重点として、単元の指導内容及び評価規準の丸数字を各時間に記載する。
- ・評価内容は、1 時間に 1～2 個程度とする。
- ・指導した日に評価する場合と後日に評価する場合がある。

【時案】

- 本時の学習の指導内容（指導の重点）
  - ・単元の指導内容及び評価規準から< >に指導する観点と丸数字、指導内容の語尾を「～できるようにする。」に変えて記載する。
- 本時の評価内容
  - ・単元の指導内容及び評価規準から《 》に評価する観点と丸数字、【 】に評価方法、（ / 時間）に指導した時間、その後に評価内容を記載する。
- 児童・生徒の学習内容・活動
  - ・学習内容を身に付けるための活動を時系列で示す。
- 学習内容
  - ・本時の学習の指導内容と学習内容がリンクしているか、学習内容が学習活動になっていないか確認する。
  - ・< >に本時の学習の学習内容の観点と丸数字、その後に学習の指導内容をより具体化して語尾を「～こと。」と記載する。
  - ・各活動ごとに分けて記載してもよい。
- 教師の指導・手立てと評価
  - ・「指導」として児童・生徒の活動を促す内容、「手立て」として児童・生徒の活動をフォローする内容を記載する。
  - ・教師の指導・手立ては語尾を「～する。」とし、「～させる。」は用いないことが望ましい。
- 発問
  - ・思考を促す【発問】と【予想される答え】を整理しておく。
  - ・各活動ごとに【発問】が考えられると望ましい。
  - ・【発問】は指導の流れを作るもので、必ず示さなければならないものではない。

- 本時の学習の指導内容・評価内容に即した活動
  - ・ < >に指導内容、<< >>に評価内容の観点と丸数字を記載する。
  - ・ 小学校は、基本的には1時間の中での指導内容、活動、評価内容を整合させる。
- 本時の学習の指導内容に即した活動
  - ・ < >に指導内容の観点と丸数字を記載する。
  - ・ 指導内容に即した活動を記載する。
- 本時の評価内容に即した活動
  - ・ << >>に評価内容の観点と丸数字を記載する。
  - ・ 前時までの学習内容の復習的な評価内容に即した活動を記載する。

〈体育 知識に関する領域及び保健〉※運動に関する領域とは異なる点

【単元計画】

- 単元名は、高等学校では学習指導要領解説の中項目もしくは小項目でとらえ、中学校では中項目、小学校では大項目でとらえるようにする。
- 単元の目標は、学習指導要領の内容を見ると「理解できるようにする」となっているが、知識・理解とともに、健康・安全についての関心・意欲・態度や思考・判断などの資質や能力を含んだものとされていることから、単元の目標は「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「知識・理解」の3つに分けて示す。
- 単元の評価規準についても、単元の目標と同様に3つの観点で示すこととする。国立教育政策研究所作成の「参考資料」<sup>12)13)</sup>を参考にする場合、中学校、小学校の単元の評価規準は「評価規準の設定例」を参考にする。
- 小・中学校の保健は観点の前に「健康・安全への（健康・安全についての）」がつくが、中学校の体育理論は「運動への（運動についての）」がつく。
- 学習の流れの学習内容は、学習指導要領解説の小項目で示す。
- 指導と評価の計画で、評価の内容は1時間に1～2個程度とする。また、毎時間できる限り「知識・理解」の観点を入れるようにする。

【時案】

- 学習内容
  - ・ 「知識」の内容をより具体化して語尾を「～こと。」と記載する。
- 発問
 

<ol style="list-style-type: none"> <li>1 意識を喚起させる【発問】</li> <li>2 思考を促す【発問】</li> <li>3 知識を定着させる【発問】</li> </ol>	}	と【予想される答え】を整理しておく
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---	-------------------

学習指導評価案の作成について（中学校 体育分野 運動に関する領域）

保健体育科（体育分野 運動に関する領域）学習指導評価案 フォーマット

【単元計画】

- 1 単元名
- 2 対象 組 名
- 3 期間 平成 年 月 日（ ）～ 月 日（ ）
- 4 場 所
- 5 学習指導要領の内容及び単元の目標

**単元名**

○「学年」「領域」「型：種目」または「種目」を記載します。



(1)

**学習指導要領の内容及び単元の目標**

○『中学校学習指導要領の内容及び単元の目標』から語尾を「～できるようにする。」に変えて記載します。

(2)

(1) 『技能（体づくり運動は「運動」）』の内容。

(2) 『態度』の内容。

(3) 『知識、思考・判断』の内容。

(3)

○(2) 『態度』(3) 『知識』については、該当学年で取り上げる内容がわかるように下線\_\_\_\_\_を引きます。



6 単元の指導内容及び評価規準

指導内容			
<技能>	<態度>	<知識>	<思考・判断>
<p><b>指導内容</b></p> <p>&lt;技能&gt; ○『中学校学習指導要領解説の例示』の内容を記載します。</p> <p>&lt;態度&gt; ○「5 学習指導要領の内容及び単元の目標」で下線を引いた内容の語尾を「～こと。」として記載します。 ○愛好的態度は「種目の学習」または「型：種目の学習」に変えます。 ○『中学校学習指導要領解説の態度の内容』の『～など』に関する具体的な内容も記載します。</p> <p>&lt;知識&gt; ○「5 学習指導要領の内容及び単元の目標」で下線を引いた内容の語尾を「～理解すること。」として記載します。 ○「種目」または「型：種目」に変えます。 ○『中学校学習指導要領解説の知識の内容』の『～など』に関する具体的な内容も記載します。</p> <p>&lt;思考・判断&gt; ○『中学校学習指導要領解説の例示』の内容を記載します。</p>			
<p><b>評価規準</b></p> <p>○指導内容の語尾を変えます。                      &lt;&lt;技能&gt;&gt; 「～できる。」                      &lt;&lt;関心・意欲・態度&gt;&gt; 「～しようとしている。（～いる。）」                      &lt;&lt;知識・理解&gt;&gt; 「～について、学習した具体例をあげている。」                      「～について、言ったり書き出したりしている。」                      &lt;&lt;思考・判断&gt;&gt; 「～している。」</p>			
評価規準			
運動の <<技能>> 【観察】	運動への <<関心・意欲・態度>> 【観察】	運動についての <<知識・理解>> 【観察】【ノート】	運動についての <<思考・判断>> 【観察】【ノート】
～ができる	～しようとしている （～いる）	～について、学習した 具体例を挙げている ～について、言ったり 書き出したりしている	～している



7 学習の流れ・指導と評価の計画 ( 時間)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
共通メニュー (準備運動、補強運動、今日の学習内容の確認)																			
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p><b>学習の流れ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1単元を第1・2学年は8～10時間程度、第3学年は15～20時間程度を目安に作成します。</li> <li>○ 単に練習やゲームと記載するのではなく、教材の工夫や指導方法がある程度わかるように作成します。</li> </ul> </div>																			
共通メニュー (整理運動、振り返り、次回課題等)																			



	時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	総	
指導内容	関心意欲態度																						
	思考判断																						
	技能																						
	知識理解																						
評価内容	関心意欲態度																						
	思考判断																						
	技能																						
	知識理解																						



**指導と評価の計画**

- 「いつ」「何を」指導して、「いつ」「何を」評価するかがわかるように、指導の重点と評価の重点として「6 単元の指導内容及び評価規準」の丸数字を各時間に記載します。
- 評価内容は、1時間に1～2個程度とします。
- 本時で評価する場合と後日に評価する場合があります。

8 学習指導の工夫

(1) 学習の流れの工夫

(2) 場の工夫

(3) 学習資料の工夫

(4) その他

【本時の展開】（ / 時間）

(1) 本時の学習の指導内容（指導の重点）

< >  
< >

**本時の学習の指導内容（指導の重点）**

○「6 単元の指導内容及び評価規準」から< >に指導する観点と丸数字、その後に指導内容の語尾を「~できるようにする。」に変えて記載します。



(2) 本時の評価内容

< >  
【 】（ / 時間）  
< >  
【 】（ / 時間）

**本時の評価内容**

○「6 単元の指導内容及び評価規準」から< >に評価する観点と丸数字、【 】に評価方法、（ / 時間）に指導した時間、その後に評価内容を記載します。

(3) 展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
はじめ	<p>○・・・</p> <p><b>生徒の学習内容・活動</b> ○学習内容を身に付けるための活動を時系列で示します。</p> <p><b>学習内容</b> ○本時の学習の指導内容と学習内容がリンクしているか、学習内容が活動になっていないか確認します。 ○&lt; &gt;に本時の学習の指導内容の観点と丸数字、その後に学習の指導内容をより具体化して語尾を「~こと。」と記載します。 ○各活動ごとに分けて記載してもよいです。</p>	<p>○・・・</p> <p><b>教師の指導・手立てと評価</b> ○「指導」として生徒の活動を促す内容を記載し、「手立て」として生徒の活動をフォローする内容を記載します。 ○教師の指導・手立ては、語尾を「~する。」とし「~させる。」は用いないことが望ましいです。</p> <p>○本時の指導内容、活動、評価内容を一貫させます。</p>
なか	<p>【学習内容】 &lt; &gt; &lt; &gt;</p> <p>1 活動（本時の学習の指導内容に即した活動）</p> <p>【発問】 &lt; &gt; ○・・・</p> <p><b>本時の学習の指導内容に即した活動</b> ○&lt; &gt;に指導内容の観点と丸数字を記載します。 ○指導内容に即した活動を記載します。</p>	<p>○・・・</p> <p><b>発問</b> ○思考を促す【発問】と【予想される答え】を整理しておきます。 ○各活動ごとに【発問】が考えられると望ましいです。 ○【発問】は、指導の流れを作るもので、必ず示さなければならないわけではありません。</p>
まとめ	<p>2 活動（本時の評価内容に即した活動）</p> <p>○・・・</p> <p><b>本時の評価内容に即した活動</b> ○&lt; &gt;に評価内容の観点と丸数字を記載します。 ○前時までの学習内容の復習的な評価内容に即した活動を記載します。</p>	<p>&lt; &gt; ○・・・</p>
	<p>3 活動（本時の学習の指導内容・評価内容に即した活動）</p> <p>&lt; &gt; ○・・・</p> <p><b>本時の学習の指導内容・評価内容に即した活動</b> ○&lt; &gt;&lt; &gt;に指導内容・評価内容の観点と丸数字を記載します。 ○指導内容・評価内容に即した活動を記載します。</p>	<p>&lt; &gt; ○・・・</p>

## 5 単元計画及び時案を作成するためのツールの作成

学習指導評価案を作成するためのツールとして、「新学習指導要領に対応した単元計画の構造図」<sup>14)</sup>を基にした単元計画の構造図作成ツールを作成した。

### (1) 「新学習指導要領に対応した単元計画の構造図」とは

独立行政法人教員研修センター主催の子どもの体力向上指導者養成研修等で使われている単元計画の様式で、単元全体の構造のイメージを大切にしながら、具体的な授業づくりの準備をするのに役立つと考えられる。<sup>15)</sup>本センターでも高等学校初任者研修講座や10年経験者研修講座で活用しているが、構造図を作成した先生方の感想からは、次のような点が上げられた。

**【球技(ネット型)の単元計画の作成】**  
新学習指導要領に対応した単元計画の構造図 2016改訂版サンプル

課名	課名	課名	課名
球技名	口口立口口	口口立口口	口口立口口
<p><b>A</b></p> <p>球技(ネット型)の単元計画の作成</p> <p>球技(ネット型)の単元計画の作成</p>	<p>球技(ネット型)の単元計画の作成</p> <p>球技(ネット型)の単元計画の作成</p> <p>球技(ネット型)の単元計画の作成</p>	<p>球技(ネット型)の単元計画の作成</p> <p>球技(ネット型)の単元計画の作成</p> <p>球技(ネット型)の単元計画の作成</p>	<p>球技(ネット型)の単元計画の作成</p> <p>球技(ネット型)の単元計画の作成</p> <p>球技(ネット型)の単元計画の作成</p>

この図は、単元計画の構造を詳細に示すためのツールであり、左側に学習指導要領の項目（例：1. 知識、2. 技能、3. 態度）と、右側にそれに対応する単元計画の構成要素（例：単元目標、学習目標、学習活動、評価）が配置されています。また、中央には「球技(ネット型)の単元計画の作成」に関する具体的な手順や留意点が記載されています。

- 1枚で単元全体の構造が、見て取れる。
- 学習指導要領に示した学習内容を確認し、整合性を取りながら単元計画が作れる。
- 学習活動を考えながら、いつ何を指導し、いつ何を評価するかが一目でわかる。
- 指導する内容、評価する内容が一時間に偏らず、バランスよく配置するのに役に立つ。
- 指導する内容と評価する内容、それを身に付けるための活動に一貫性があるかどうか一目でわかる。
- 作成するのに時間がかかる。
- 作業が煩雑。
- 構造を理解するのが難しい。

(2) 単元計画の構造図作成ツールについて

学習指導評価案の単元計画を作成するのに「新学習指導要領に対応した単元計画の構造図」の良い点を利用することは非常に有効であると考えた。ただ、学校の先生方が日常の授業で活用するには、さらに簡略化し、使いやすいものにする必要があると考え、下にあるような単元計画の構造図作成ツールを作成した。

単元名 陸上競技 短距離走・リレー  
 中学校第1学年及び第2学年

※「滑らかな動き」とは、腕振りと足の動きを調和させた全身の動きのことです！（技能）  
 ※「ルールやマナーを守る」などの公正・協力の態度も身に付けます（態度）。  
 ※知識として、「関連して高まる体力」も扱います！（知識）

※このセルにカーソルを合わせると説明の文を見ることができます。  
 ※1 本時の学習の指導内容にあたります。  
 ※2 本時案の展開の部分に記載します。

※運動の行い方のポイントを見付けることや課題に応じた練習方法を選ぶなどの思考判断する活動を取り入れます！（思考・判断）

図形を拡大、移動してこのゾーンに計画をつくりましょう。

学習指導要領の内容	解説	学習内容 *1	学習内容の具体 *2										評価時間	評価取準例				
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10						
技能 指準内容の概要 ア 短距離走・リレーでは、滑らかな動きで速く走るようにする。	【(1) 次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、基本的な動きや常時のよい動きを身に付けることができるようにする。】	【クラウチングスタートの加速】	クラウチングスタート															
		【自分で合ったピッチとストライド】 【タイミングを合わせたパトパス】	ピッチとストライド パトパス															
態度 イ 陸上競技に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。	【積極的に取り組む】 【勝敗を認め、ルールやマナーを守ろうとする】 【分担した役割を果たそうとする】 【「〜など」の例、仲間の学習を援助しようとする】 【健康・安全に気を配る】	【積極的に取り組む】	積極的に取り組む															
		【勝敗を認め、ルールやマナーを守ろうとする】 【分担した役割を果たそうとする】 【「〜など」の例、仲間の学習を援助しようとする】 【健康・安全に気を配る】	ルールやマナーを守る 分担した役割を果たす 仲間の学習を援助する 健康・安全に気を配る															
知識、思考・判断 ウ 陸上競技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。	【陸上競技の特性や成り立ち】 【技術の名称や行い方】 【関連して高まる体力】 【技術を身に付けるための運動の行い方を見付ける】 【課題に応じた練習方法を選ぶ】 【役割に応じた協力の仕方を見付ける】 【安全上の留意点を練習や競争場面に当てはめる】	【陸上競技の特性や成り立ち】	陸上競技の特性や成り立ち															
		【技術の名称や行い方】 【関連して高まる体力】 【技術を身に付けるための運動の行い方を見付ける】 【課題に応じた練習方法を選ぶ】 【役割に応じた協力の仕方を見付ける】 【安全上の留意点を練習や競争場面に当てはめる】	技術の名称や行い方 関連して高まる体力 運動の行い方を見付ける 練習方法を選ぶ 協力の仕方を見付ける 安全上の留意点															

ア 単元計画の構造図作成ツールの作成に当たり工夫した事項

- 学習指導要領及び解説の内容があらかじめシートに記載されていて、クリックすると見られるようになっている。
- 学習指導要領及び解説に書かれているその領域（種目）・学年での学習内容（\*1）があらかじめすべて記載されているため、具体的指導内容をもれなく検討した上で、必要に応じて精選するなどし、計画できる。
- 学習内容の具体（\*2）の技能欄には、本センターで作成した学習指導要領解説の技能の例示を具体的に指導する際のポイント<sup>16)</sup>が、態度欄には学習指導要領に示された態度の内容を指導する際に理解させる知識が、知識欄には知識の具体的内容が、思考・判断欄には学習指導要領解説の例示が記載されていて、クリックすると見られるようになっている。
- 学習内容のキーワードを示すカードを移動して、指導時間に置くことができる。
- 学習の流れを示す表を加工して、指導内容にあった学習活動を考えることができる。
- 学習内容に係る評価規準が参考としてあらかじめ記載されていて、クリックすると見られるようになっている。
- 評価時間を考え記載し、その時間に色を付けると、観察評価が1時間に2つ以上あった

り、評価する内容がその時間の活動に合っていないなかったりといったことが一目でわかる。  
○ 学習指導評価案の各項目とリンクしている部分があるので、学習指導評価案にそのまま転記することができる。

イ 単元計画の構造図作成ツールの各領域1種目作成に当たり工夫した事項

今回は試作品として、中学校第1学年及び第2学年の体育分野 運動に関する領域の各領域から1種目ずつ作成した。各領域において工夫したところは、次の通りである。なお、今回提示した以外の種目で作成する場合、態度及び知識、思考・判断は領域共通であるので、技能の部分を変更することで使用することができる。

(ア) 体づくり運動

体ほぐしの運動については、活動の中で、気付き・調整・交流の明確な区別がしにくいことから、1つのカードとして表した。体力を高める運動は、ねらいごとの例示が数多くあるため、1つ1つのねらいでくくることとした。

(イ) 器械運動（マット運動）

技能に関しては、基本的な技、条件を変えた技、発展技で分け、その中にその学年で当てはまる技を記載した。また、例示とは別に「組み合わせ」について、学習内容の1つとした。評価については、条件を変えた技と発展技をまとめて1つで示した。

(ウ) 陸上競技（短距離走・リレー）

技能に関して、学習内容を3つの例示で分け、その1つ1つで評価する形で示した。

(エ) 水泳（クロール）

技能に関して、学習内容を3つの例示で分け、その1つ1つで評価する形で示した。スタート及びターンについては、学習指導要領の技能には書かれていないが、内容の取扱い及び解説に示されていることから、技能の学習内容とし、解説の例示からクロールにかかわるものを1つずつ示した。

(オ) 球技（ゴール型：サッカー）

技能に関して、学習内容はゴール型の例示で、学習内容の具体はサッカーについて示している。サッカー以外のゴール型の種目を行う場合には、学習内容の具体（\*2）のみその種目にあわせたものにすれば、そのまま使用することができる。

(カ) 武道（柔道）

技能の内容を、基本動作と基本となる技に大きく分け、その中を基本動作、受け身と投げ技、固め技に分け、例示ごとに学習内容の具体を示した。投げ技については3つの系に分け、その学年で示された技を記載した。また、評価については、基本動作と基本となる技で1つずつ示した。

(キ) ダンス（創作ダンス）

技能に関して、学習指導要領解説に示された多様なテーマと題材や動きの例示を学習の流れに当てはめながら授業の計画が立てられるように、他の領域にはない1つの表を示した。

ウ 単元計画の構造図作成ツールの具体的な作成手順について

- ① 単元名・領域（種目）・学年を選択する。
- ② 単元の時間数を決めて、枠が足りなければ行挿入で作る。
- ③ 学習指導要領及び解説の内容を確認する。
- ④ その学年で重点的に行う指導内容を選択する。
- ⑤ 学習の流れを考えながら、いつ何を重点的に指導し、いつ何を重点的に評価するか考え、指導時間にカードを移動し、評価時間を記載するとともに評価時間のセルに色を付ける。  
（観察評価とノート記述評価と色を変えるとよい）
- ⑥ 1時間の指導内容・評価内容の偏りや評価する時間にふさわしい活動があるか等、全体を見て調整する。
- ⑦ 学習の流れを確定する。

## 【研究の考察】

### 1 従前の学習指導要領と新学習指導要領を基にした評価規準の比較から見てくること

今回、従前と新の学習指導要領を基にした評価規準を比較して明らかになったことの一つに、「思考・判断」の観点に「表現」の概念が含まれたことがあげられる。これは、「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」が学力の重要な要素の一つであるという新学習指導要領の趣旨を踏まえたものと考えられる。

また、4観点ともに、学習内容に即して表記方法の整理がなされたが、特に「技能」を除く3観点に、領域に共通した表記方法の統一が行われた。よって統一された共通の表記を系統的に整理することで、どの学年でどの段階まで指導するのかが一目でわかるとともに、小・中学校を見通した指導と評価がより一層明確に行えると考えられる。

### 2 新学習指導要領を基にした評価規準の系統表から見てくること

#### (1) 「関心・意欲・態度」の観点について

学年が進行するにつれ、表記内容が変わり、その変化を見ることで資質・能力の段階があがっていくことがわかる。中学校では、「愛好的態度」、「公正・協力」、「責任・参画」、「健康・安全」の4カテゴリーで分けられるが、小学校の設定例で出てくる「友達と協力して、用具の準備や片付けをする」は、協力と責任の要素があると考えられ、4カテゴリーでは、うまく分けられないものもある。

また、変化していく表記内容の意味については、学習指導要領解説に説明があるので、その意味や違いを理解して、指導や評価につなげていくことが大切である。

#### (2) 「思考・判断」の観点について

系統的に作られているが、特に設定例で小学校と中学校の接続の部分でうまく接続しきれない部分がある。例えば小学校では、「思考・判断」の中に知識の要素が含まれていて、「〇〇を知るとともに、△△を選んでいる（見付けている）」という表現になっていることなどがあげられる。また、小学校と中学校とで児童生徒の発達段階や想定している単元の長さが違うので、その中で求められる思考・判断の内容も変わってくるなどその理由として考えられる。

従って、小学校では「思考・判断」を「課題（の設定）」と「課題の解決のために（楽しむために）工夫すること」の2つのカテゴリーに、中学校では「体の動かし方や運動の行い方」、「体力や健康・安全」、「運動実践につながる態度」、「生涯スポーツの設計」という4カテゴリーに分けた。小学校では技能とのかかわり、中学校では技能、態度、知識とのかかわりの中で、指導や評価を行っていくことが大切であると考えられる。

#### (3) 「技能」の観点について

「思考・判断」と比べ、「技能」は小学校から中学校への接続がスムーズで、系統性が非常によくわかるようになっている。「ねらい・条件」と「動き」の2つのカテゴリーに分けたが、学年が進行するにつれて「ねらい・条件」、「動き」のそれぞれの段階があがっていくことがわかる。また、その中で技能の段階が下がる部分があるが、それはゲームが「易しいゲーム」、「簡易化されたゲーム」から「（正規のルール）ゲーム」へと設定が変わるからである。

#### (4) 「知識・理解」の観点について

「知識・理解」については、学年が進行するにつれて、知識の指導内容が加わっている。また、高等学校学習指導要領によると、各段階で繰り返し示している「技術（技）の名称や行い方」などの内容についても、各段階における技能の指導内容の発展に伴い、新しく学習する技術やその名称、目標とする技能などの高まりによって新たに習得が求められる知識の指導内容があるとしている。

また、保健については、指導内容が小学校、中学校、高等学校と進行するにつれて、「身近な生活」、「個人生活」、「個人生活及び社会生活」という対象に広がりがあり、また、思考の仕方が「より実践的に」から「より科学的に」という段階に変わっていることから、系統的に指導と評価をしていくことが大切である。

### 3 単元計画の構造図作成ツールの開発とその活用について

ツールの開発によって、学習指導要領及び解説を転記する必要がなくなり、作成時間の短縮につながると考えられる。また、授業づくりに係る部分（「新学習指導要領に対応した単元計画の構造図」ではBゾーンに当たるところ）のみを使って指導と評価の内容及び時期、児童・生徒の活動を考えることが中心となるため、構造もわかりやすく作業もシンプルになると考えられる。これらのことから、本ツールは「新学習指導要領に対応した単元計画の構造図」と比べて、学校で使いやすいものと考えられる。

また、今回試作品として各領域1種目ずつ作成した。今後、本センターの研修講座やコンサルティング事業等で積極的に活用し、そこからの課題等をフィードバックして、学校の先生方がさらに使いやすいものに改良していきたいと考える。さらに、その他の種目や校種に対応したものについても、検討していきたい。

#### 【まとめ】

今回、文部科学省や国立教育政策研究所から、学習指導要領解説をはじめとする資料の中で、指導と評価に関する内容が非常に具体的に示されていることを感じた。ただ、その内容が学校の先生方に伝わり、授業に反映されていかなければ意味がないし、それを伝えていくのが、県の教育委員会であり、本センターの使命であると考えている。

本研究では、指導と評価の計画様式について提案したが、多くの学校において、授業づくりの際の一助となれば幸いである。

### 【引用・参考文献等】

- 1) 中央教育審議会 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申） 平成 20 年 1 月
- 2) 中央教育審議会 児童生徒の学習評価の在り方について（報告） 平成 22 年 3 月
- 3) 国立教育政策研究所 評価規準の作成、指導方法の工夫改善のための参考資料（小学校） 平成 14 年 2 月
- 4) 国立教育政策研究所 評価規準の作成、指導方法の工夫改善のための参考資料（中学校） 平成 14 年 2 月
- 5) 国立教育政策研究所 評価規準の作成、指導方法の工夫改善のための参考資料（高等学校） 平成 16 年 3 月
- 6) 国立教育政策研究所 評価規準の作成のための参考資料（小学校） 平成 22 年 11 月
- 7) 国立教育政策研究所 評価規準の作成のための参考資料（中学校） 平成 22 年 11 月
- 8) 国立教育政策研究所 保健体育科における評価規準の作成、評価方法等の工夫改善（仮） 平成 24 年 3 月
- 9) 文部科学省 小学校学習指導要領解説 体育編 平成 20 年 8 月
- 10) 文部科学省 中学校学習指導要領解説 保健体育編 平成 20 年 9 月
- 11) 文部科学省 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編 平成 21 年 12 月
- 12) 国立教育政策研究所 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校 保健体育） 平成 23 年 7 月
- 13) 国立教育政策研究所 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（小学校 体育） 平成 23 年 3 月
- 14) 平成 22 年度子どもの体力向上指導者養成研修資料 2010 年 4 月
- 15) 佐藤 豊・友添秀則 楽しい体育理論の授業をつくろう 2011 年 8 月 大修館書店
- 16) 神奈川県立体育センター 学習（指導）内容の整理表 平成 21 年 3 月